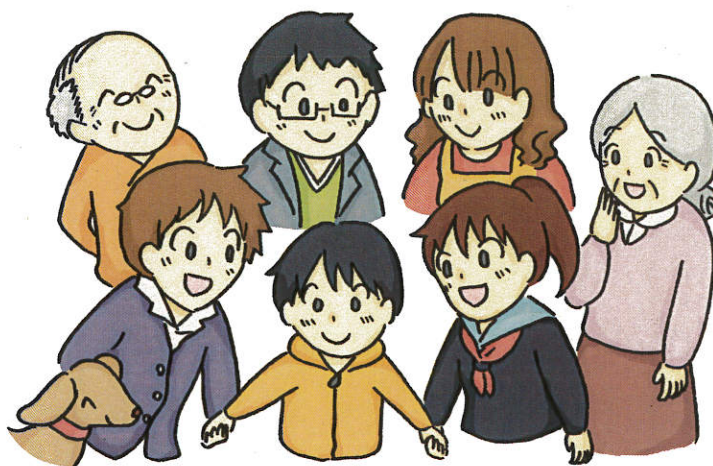


福知山市公共施設マネジメント 基本方針

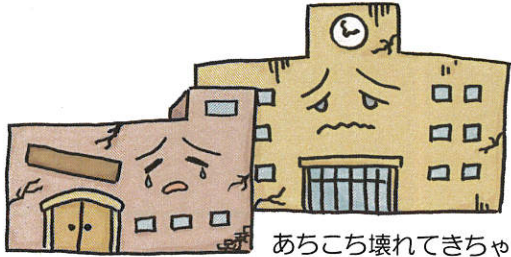


市民をど真ん中に

平成26年9月 福知山市

1. 公共施設の更新問題とは？

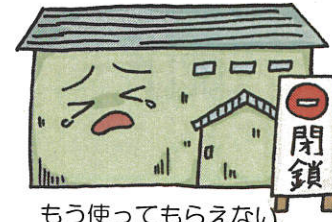
公共施設のあり方を抜本的に見直す時期にきています！



あちこち壊れてきちゃった

地震に耐えられそうにないわ...

一斉に建設した公共施設は一斉に老朽化し、いま改修等の手を加えなければ良好な状態で使えなくなります。

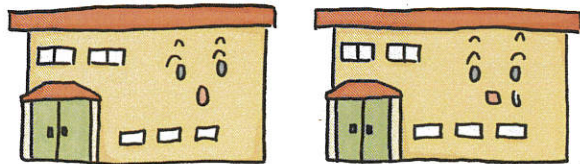


もう使ってもらえない

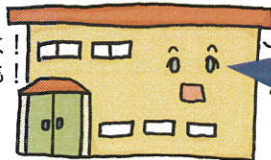
公共施設の更新問題

高齢化など市民ニーズの変化に対応する必要があります。合併による機能の重複も残されています。

全ての施設をそのまま維持するには膨大な費用がかかり、負担も大変になります。



同じような施設もあるよ！
市民ニーズに合わない施設も！



公共施設のあり方を抜本的に見直す時期に！



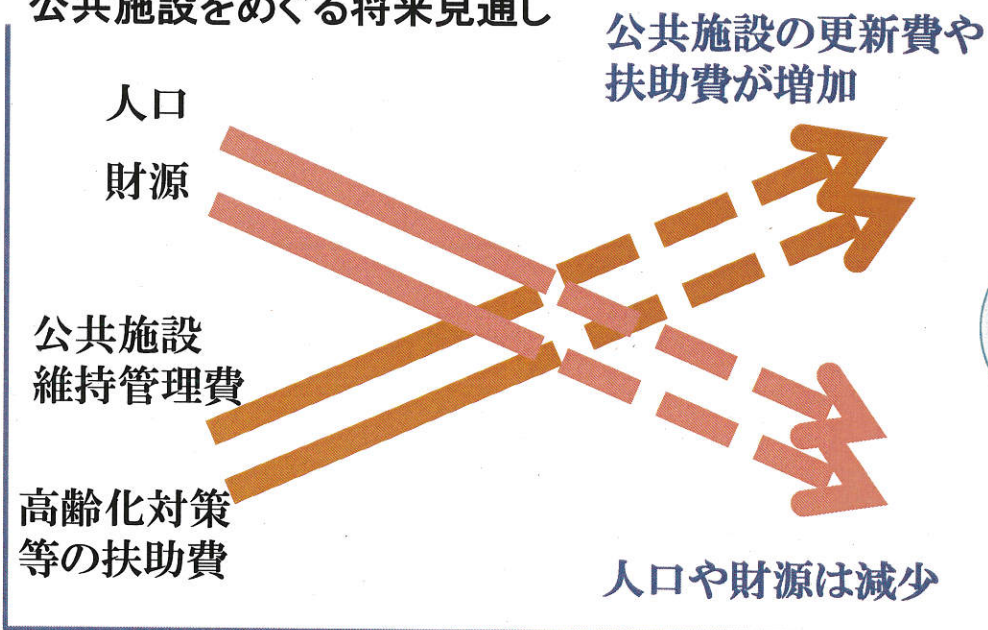
きれいにしたいけど

全部の施設をピカピカに更新すると財政が破たんしちゃう！

1. 公共施設の更新問題とは

今、公共施設のあり方が、市と市民の将来に関わる大きな問題となっています!!

公共施設をめぐる将来見通し



かつて、潤沢な財源（税金）をベースに自治体が「あれもこれも」と公益サービスを担ってきた時代がありました。

しかし、少子化・超高齢化が進む中、行政があらゆる市民ニーズに対応するサービスを提供することは不可能です。

今後、持続可能な行政サービスを提供していくためには、行政が行うべきサービスと民間等にゆだねるべきサービスなどを仕分けして、限られた財源の使い道を選択し、集中していく必要があります。

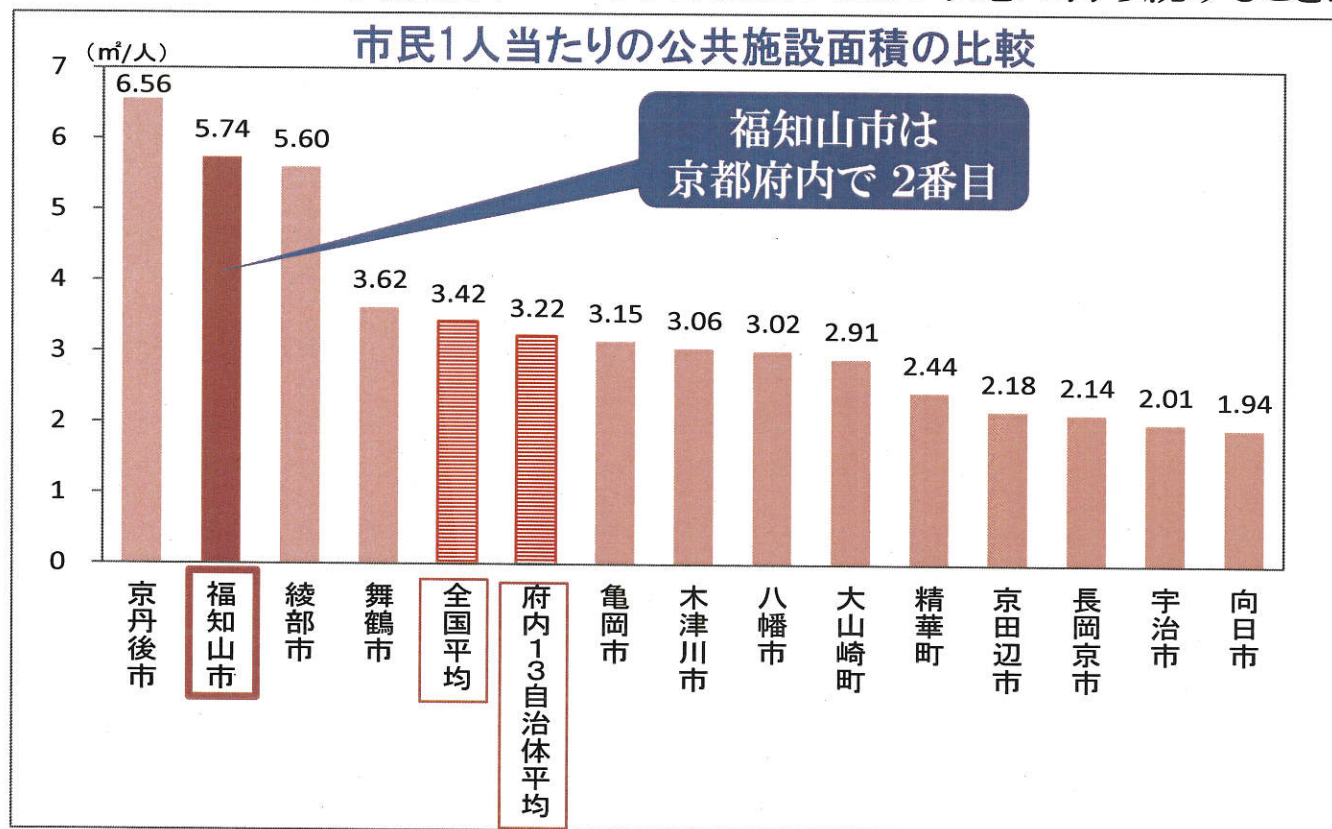
- このままでは、私たちの子どもや孫の世代に「公共施設の更新コスト」という大きな負担を残すこととなります
- そのため、700施設以上にものぼる公共施設（ハコモノ）から本当に必要なものを選択することが必要です

1. 公共施設の更新問題とは

福知山市における公共施設の更新問題 ①

【多くの公共施設を保有しており、維持管理や更新の経費が増加する】

- 全市の公共施設の総数700施設以上で、その延床面積は約46万㎡。
- 人口1人当たりの面積は5.7㎡で、全国平均の約1.7倍、また京都府内では京丹後市に次いで2番目に大きい。
- そのため、全ての公共施設(ハコモノ)を現在のままの状態で持ち続けることは財政的に不可能。



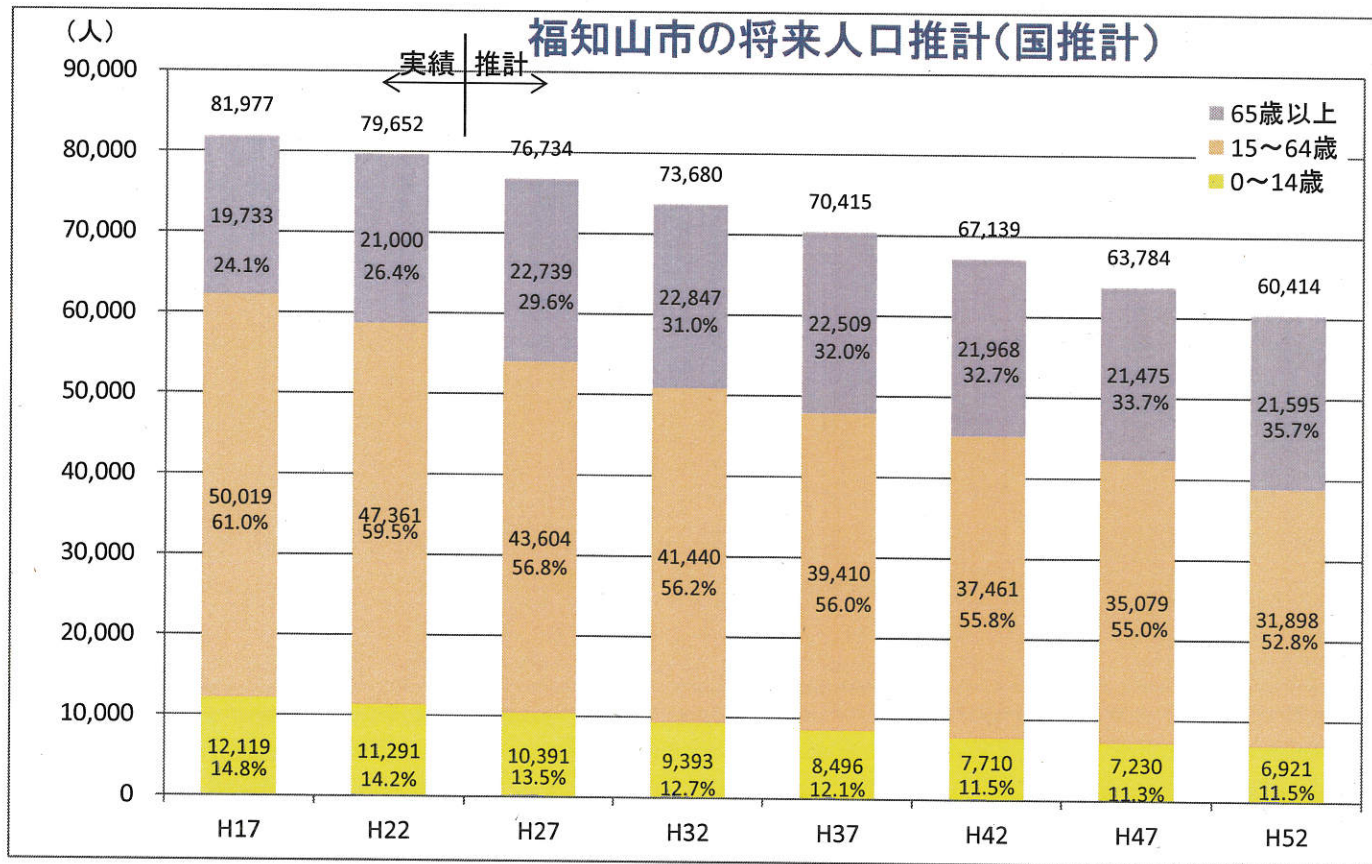
資料：
全国平均は東洋大学PPP研究センター「全国自治体公共施設延床面積データ分析結果報告」(H22.3時点データ)。
府内は自治体の統計書等でデータが把握できた13自治体。
延べ床面積は概ね平成23年度末現在で、人口は平成24年3月末住民基本台帳人口。

1. 公共施設の更新問題とは

福知山市における公共施設の更新問題 ②

【人口の減少が進む】

- 本市の住民登録人口は8万1千人。
- 国の推計では、10年ごとに市人口の1割が減少し平成52年には約6万人にまで、減少。
- 将来、利用者の少ない施設が増えることも予想される。



資料:実績値は国勢調査、推計値は国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」。なお、平成17年人口は旧1市3町の合計人口

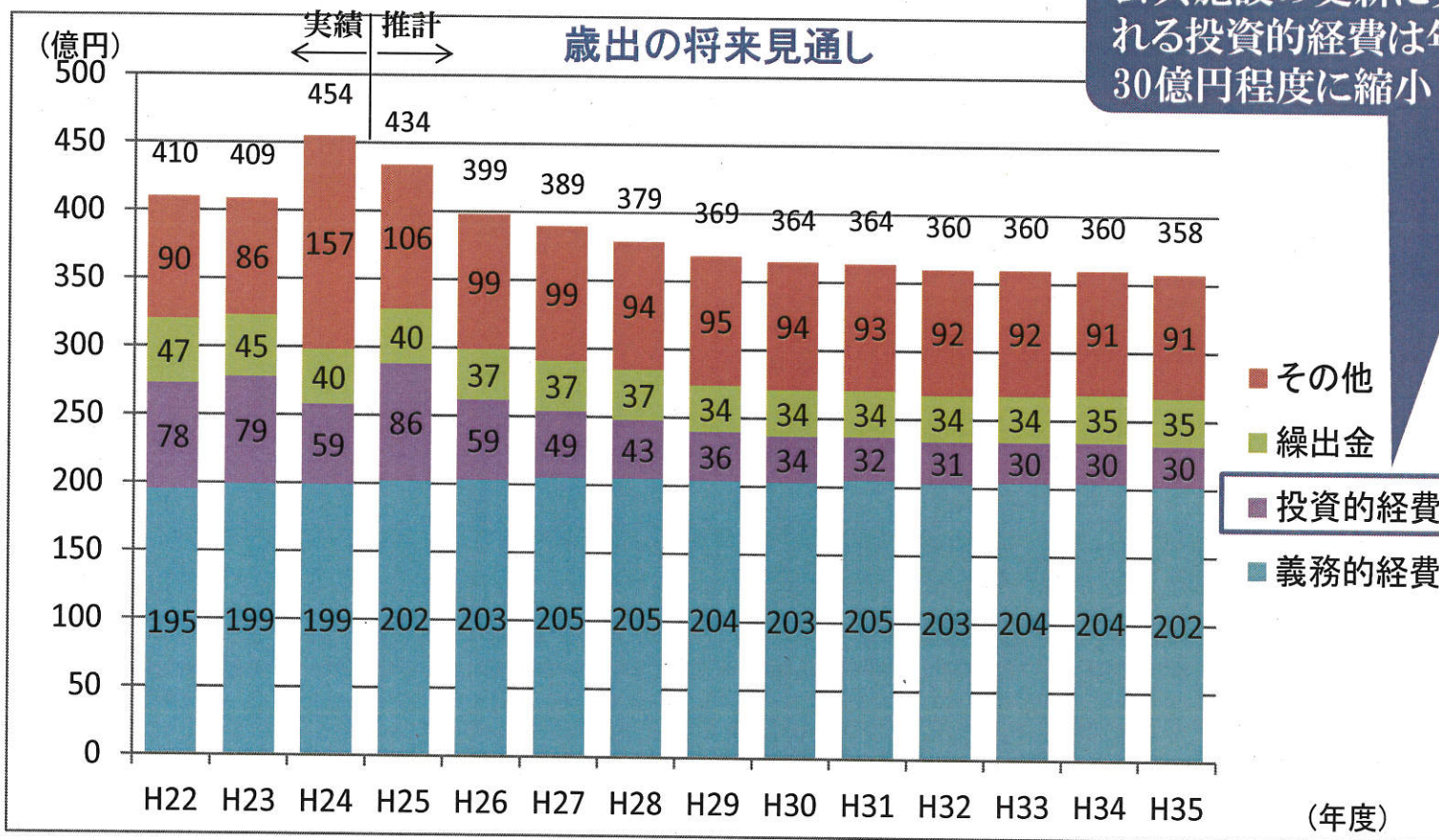
1. 公共施設の更新問題とは

福知山市における公共施設の更新問題 ③

【財源は減少し、確保可能な投資的経費は縮小する】

- 税収や地方交付税等の歳入は減少。
- 高齢化対策や子育て対策などの扶助費が増加。
- そのため、施設の維持や更新に回せる財源は僅かに。

公共施設の更新に充てられる投資的経費は年間で30億円程度に縮小



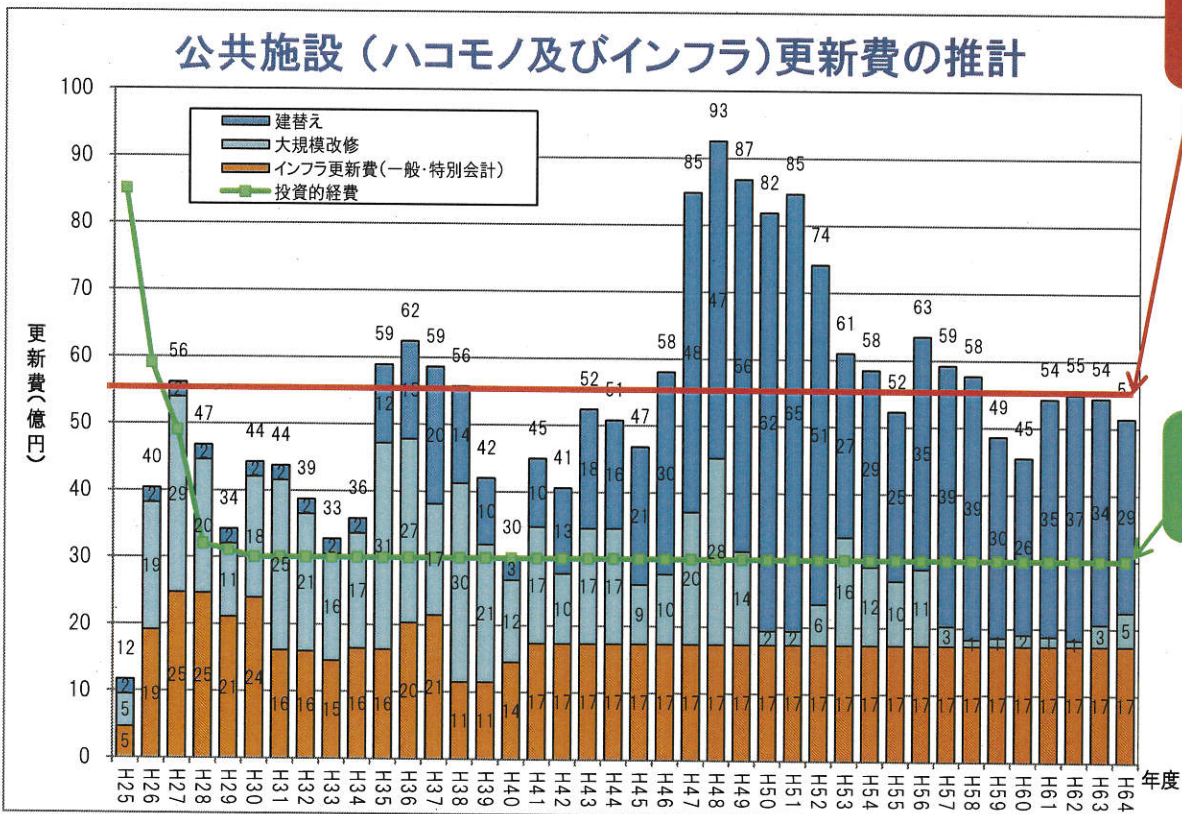
資料：福知山市中期財政見通し

1. 公共施設の更新問題とは

福知山市における公共施設の更新問題 ④

【このままでは膨大な更新費用が必要となる】

- 現在の公共施設をそのまま保持し、更新し続ける場合には、年間54億円ほどの更新費が必要となり、確保可能な財源を大きく上回る見込み。



年平均約 54 億円の大規模改修費や施設更新費が必要

公共施設（ハコモノ）とインフラ（企業会計除く）の更新費を合計すると、40年間の総額では2,152億円、年平均は53.8億円が必要となります。



確保可能な財源は年30億円程度

一方、中長期財政見通しによると、今後投入可能な投資的経費は、平成25～35年度の合計で436億円であり、仮に平成35年度以降を毎年30億円と仮定して、同じく40年間に当てはめると、総額は1,306億円、年平均は32.7億円となります。

資料：ふるさと財団「公共施設等更新費用試算ソフト」により試算。
 ・公共施設等の大分類ごとに、建替え、大規模改修について、更新年数経過後に現在と同じ延べ床面積等で更新すると仮定し、延べ床面積等の数量に更新単価を乗じることにより、更新費用を試算する。期間は調査年度から40年度分とする。
 ・更新年数については、建替えでは60年、大規模改修では30年とする。
 ・期首時点で建替え更新が積み残されているものについては当初10年間に分散して均等配分する。
 （なお、すでに築30年以上が経過したものについては、大規模改修は建て替えまで先送りするものとした）

2. 公共施設マネジメントの考え方

公共施設の「マネジメント」が必要です！

- 将来にわたって持続可能な都市を目指すことが、今日、都市経営の最も重要な課題です。
- 市が保有する全ての施設について、全体として福知山市の身の丈に合い、将来にわたって維持することができるよう**最適な施設配置(公共施設マネジメント)**を検討することが大切です。
- **公共施設マネジメント**とは、平均的・網羅的にバランスを取るのではなく、現在及び将来の市民にとって本当に必要なもの、価値のあるもののみを選びすぐって継承していくこと、すなわち公共施設の「**選択と集中**」を行うことです。

このような考え方を基本とします

■ マネジメント基本指針

— 過去の取組を踏まえ、現在の暮らしを守り、
未来の世代に責任を持つ —

- ① **進む少子化・超高齢化への対応**
人口減少やニーズの変化に対応し、将来負担を軽減する最適な公共施設を実現
- ② **公共施設の老朽化への対応**
選択と集中により、維持すべき施設の安全・安心は確実に確保
- ③ **公共施設の重複への対応**
全市的観点からの適切な施設配置と施設利用を再配置
- ④ **厳しい財政状況への対応**
ムダをなくし、コストを削減し、負担の公平性を確保し、将来にわたって持続可能な公共施設サービスを提供
- ⑤ **民間活力の活用**
民間活力を積極的に導入し、公共施設を最も有効に活用

2. 公共施設マネジメントの考え方

このようなスケジュールで取り組みます

■人口、財政の長期的な見通しのもと、長期、中期、短期の目標を立てて公共施設の削減を推進

長期方針

30年

将来の人口や財政の枠内で持続可能な自治体経営を行うため長期を見通した公共施設の将来フレーム(財政、人口など身の丈にあった公共施設総量)

★目標：建物延床面積で約4割(約20万㎡)の削減

中期目標

10年 (10年ごとに見直し)

10年を期間とした『公共施設マネジメント基本計画』(施設機能別のマネジメント方針)

★目標：建物延床面積で約2割(約10万㎡)の削減

短期目標

5年 (5年目に後期計画を策定)

基本計画の前期実施計画=『公共施設マネジメント実施計画』として施設機能別の具体的な再配置(削減)計画

★目標：延床面積で約1割(約5万㎡)の削減、順次実施

2. 公共施設マネジメントの考え方

再配置(削減)の対象となる公共施設を適切に絞り込みます

■ どうやってきめるの？(視点と手順)

- ◆ 視点① 公共施設の配置に偏りがいないか？
⇒ 公共施設を小学校区毎にマッピング
- ◆ 視点② 同じ機能を持つ施設が近隣にないか？
⇒ 公共施設を機能毎にグルーピング
- ◆ 視点③ 民間に任せられないか？
⇒ 公共施設の代替性の確認
- ◆ 視点④ 利用ニーズは高いか？規模は適正か？
⇒ 公共施設の利用状況の確認
- ◆ 視点⑤ 老朽化や利便性は？
⇒ 公共施設のストック情報の確認
- ◆ 視点⑥ 将来の利用需要は？
⇒ 人口推計により、将来の公共施設の必要量の予測

公共施設の再配置(削減)を順次実施します

■いつやるの？(検討の時期)

- ◆5年毎に更新する公共施設マネジメント実施計画に基づいて順次実施
- ◆その他の場合
 - ・老朽化が著しく、施設の大規模な改修が必要となったとき
 - ・施設の稼働率が著しく低下したとき

3. 福知山市の公共施設の分析

『公共施設配置マップ』により施設の分布や機能の重複を分析します

■ 公共施設配置マップの作成

- ◆ 視点① 公共施設の配置に偏りがいないか？ ⇒ 公共施設を小学校区毎にマッピング
- ◆ 視点② 同じ機能を持つ施設が近隣にないか？ ⇒ 公共施設を機能毎にグルーピング
- ◆ 視点⑤ 老朽化や利便性は？ ⇒ 公共施設のストック情報の確認

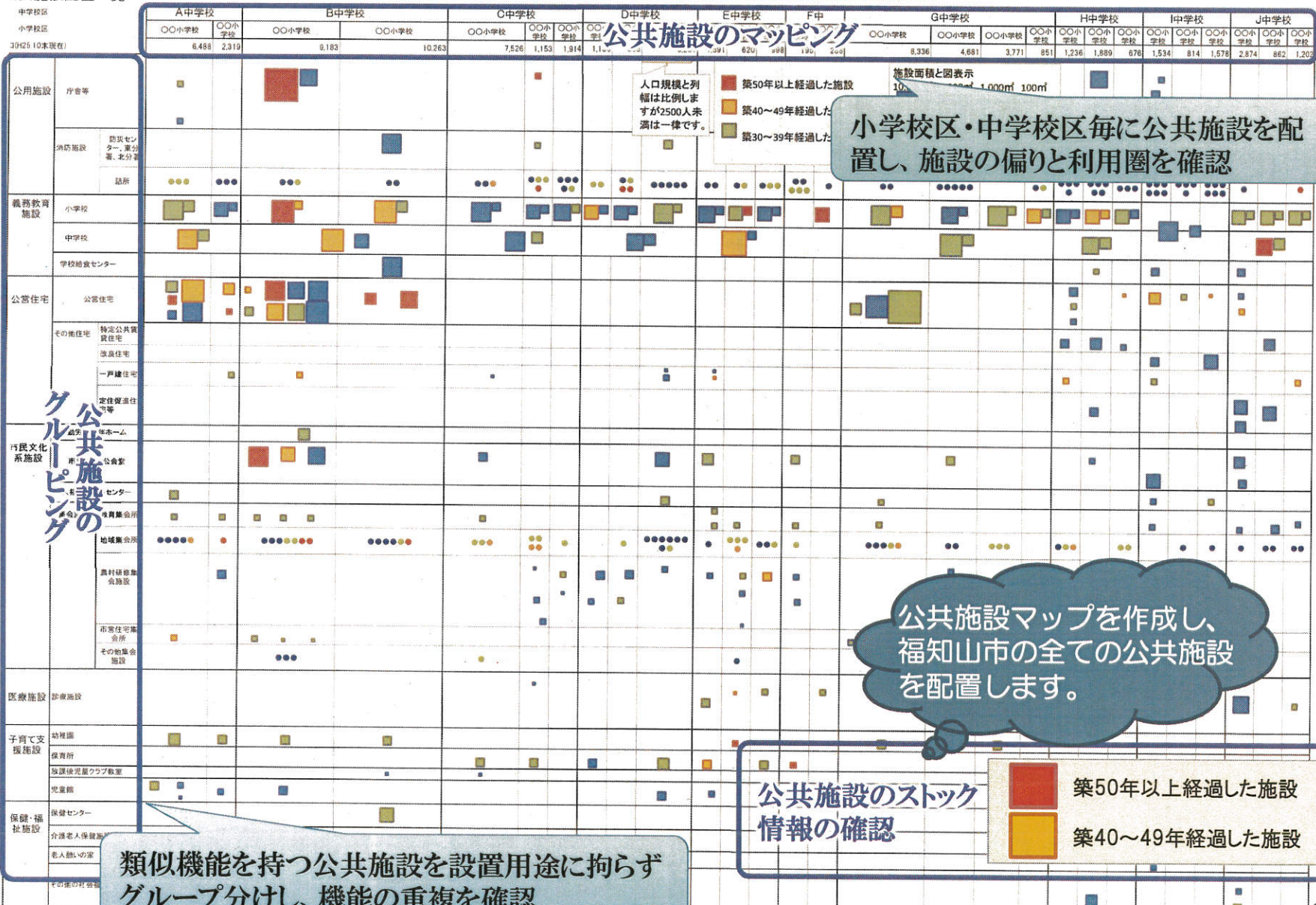
◆ 公共施設マップの作成効果＝施設情報の「見える化」

- 全ての公共施設を配置することにより、用途や所管に関わらず、施設の機能性や老朽度に注目した公共施設の再配置の検討が容易になります。
- 利用情報(利用圏域、稼働率、利用率)の追加により、公共施設(機能)の様々な偏りが確認できます。
- 民間施設情報の追加により、施設の代替性の確認が容易になります。
- 公共施設情報の一元的な提供により、市民の施設利用の選択の幅が広がります。

3. 福知山市の公共施設の分析

◆『公共施設配置マップ』

公共施設配置一覧



小学校区・中学校区毎に公共施設を配置し、施設の偏りと利用圏を確認

公共施設マップを作成し、福知山市の全ての公共施設を配置します。

公共施設のストック情報の確認

- 築50年以上経過した施設
- 築40～49年経過した施設

類似機能を持つ公共施設を設置用途に拘らずグループ分けし、機能の重複を確認

3. 福知山市の公共施設の分析

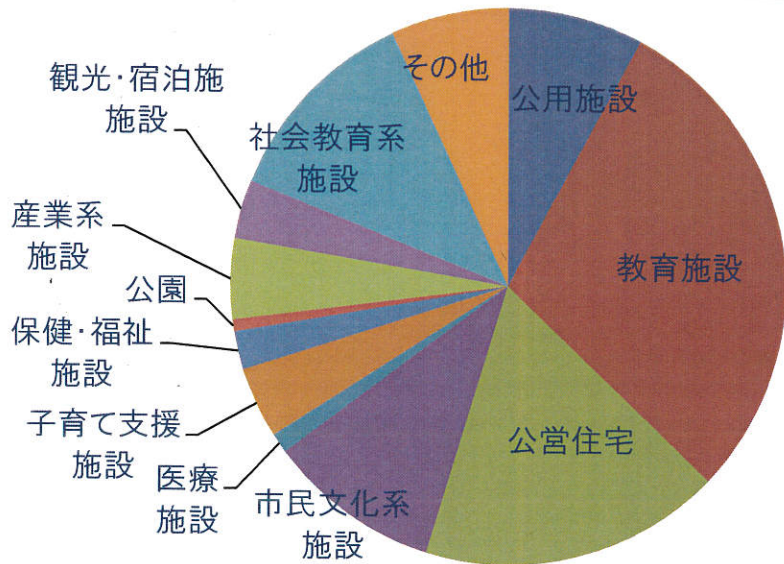
公共施設の利用実態を詳細に把握します

公共施設利用状況の調査

公共施設の調査票

- 福知山市の公共施設(ハコモノ)の現状と課題を把握するため、利用状況の調査を行っています。

福知山市公共施設の用途別構成



(3) 供給情報

01_対象者	H21	H22	H23	H24	H25
02_01 運営時間・日	8				
02_02 休日	その他				
02_03 休日(その他)	毎週月曜日、12/31~1/3				
03_01 利用_年間供用日数	308				
03_02 利用_年間延べ利用者数	284474				
03_03 利用_有料利用者数					
03_04 利用_年間実利用者数					
04_01 稼働率_年間延べ利用回数	3778				
04_02 稼働率_1日当たり利用可能回数	21				
04_03 稼働率	58%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
05_01 利用率_年間延べ利用者数	5000				
05_02 利用率_1日当たり定員	500				
05_03 利用率	3%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
06_設備(ホール、会議室)					

◇稼働率の考え方(会議室など)
稼働率_年間延べ利用回数
稼働率_1日当たり利用可能回数

	午前	午後	夜間
研修室1	○	×	○
調理室	×	○	×
和室	○	○	○

利用可能回数 9回
利用回数 6回
稼働率 66.7%

◇利用率の考え方(ホールなど)
利用率_年間延べ利用者数
利用率_1日当たり定員

	午前	午後	夜間
大会場(例10/1)	500人	500人	500人

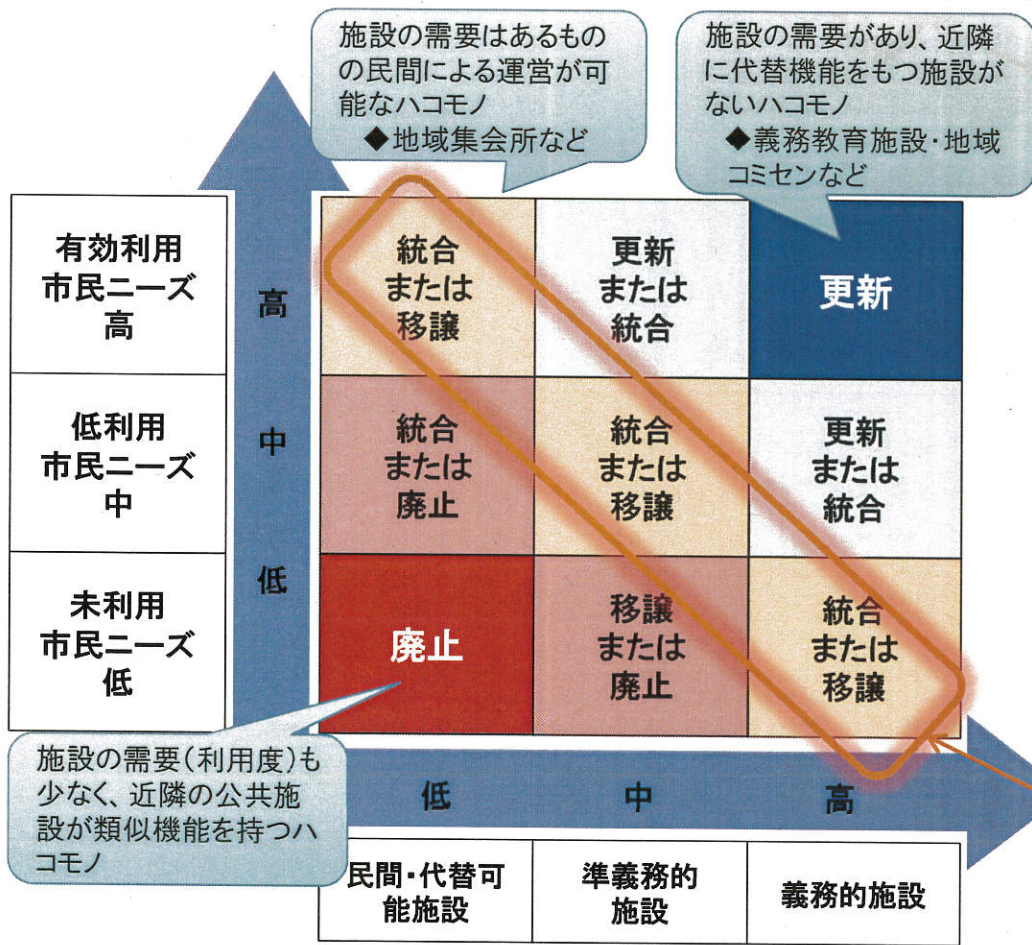
大会場定員 500人
利用者数 1,500人
利用率 300%

資料:H25福知山市公共施設状況調査

4. 福知山市の公共施設マネジメントの取組み

公共施設の優先度を明確にした再配置を行います

■「ポートフォリオ」等による優先順位の検討



「ポートフォリオ」による公共施設の再配置の「仕分け」イメージ

- 公共施設の利用ニーズや利用度と、義務的施設であるかどうか(法的な位置づけ等)といった2つの指標を設定し、評価パターンを作成します
- 具体的な指標については、例えば公共施設のグループごとに、比較評価が可能な適切な指標を設定します

- 更新 = 機能維持のため施設を建替えること
- 統合 = 他施設との複合化で機能を移転すること
- 移譲 = 機能を民間事業者または地域社会に移管すること
- 廃止 = 機能維持をしないため施設を建替えせず解体すること

機能を統合(公)または移譲(民)のどちらでも担うことができるゾーン。こうした役割分担をPPP(公民連携)といいます。

再配置にあたっては3つの視点を重視します

■ 公共施設マネジメント(再配置)の視点

◆ ムダの解消

- 公共施設のムダを解消します。
- 新たな公共施設の建設は、既存施設のスクラップ&ビルドを条件とします。

◆ 施設重視から機能重視への転換

- 公共施設サービスの内容を吟味し、民間サービスの活用を推進します。
- 「1機能1施設」の縦割型サービスからの脱却を目指します。
- 公共施設のフルセット配置を見直し、地域特性に応じた配置を検討します。

◆ 市民協働による再配置

- 地域における公共施設の問題は、施設を利用して地域をどう経営するかという自治のあり方、地域の未来のあり方の問題でもあります。
これからの公共施設のあり方を検討する上では、市民の主体的な地域経営を行政がバックアップするという役割分担も非常に重要な鍵となります。

推進にあたっては、説明責任を果たします

■ 市民意見の把握と十分な説明

◆ 市民への説明・意見収集

- 市民代表である議会に対して、公共施設マネジメントの趣旨と市としての取組み方について十分に説明するとともに、具体的な施設に再配置に当たっても、十分な意見交換を行います。
- 福知山市行政改革推進委員会において、行政改革の一環として公共施設マネジメントに関する市民的検討を行います。また、自治会をはじめ住民組織への説明の機会を充実します。
- 公共施設マネジメントについて、その考え方や方法の市民への浸透と理解の増進を図るため、先進事例などを交えた各種説明会や各種勉強会等の開催を行い、市民理解の増進に努めます。

◆ 利用者への丁寧な説明

- 公共施設の利用者又は利用団体である市民との協働により、今後の施設のあり方や管理方法を検討します。

これらの方針に基づき、福知山市は、公共施設が市民の皆様の生活に密接に関係している施設であることに留意しながら、**将来の世代に過大な負担を背負わすことのないよう**公共施設マネジメントに取り組めます。

福知山市

公共施設マネジメント推進本部